

ID番号

@PATIENTID

病名（他に考える病名）

氏名

@PATIENTNAME

様

症状

@PATIENTWARD

病棟

担当医師

@PATIENTROOM

担当看護師

@SYSDATE

担当薬剤師

号室

月日	入院日	術前日	手術日（ / ）		術翌日	術後2日～3日目	術後4日目	術後5日～	退院日（ / ）
			術前	術後					
経過	余った装具については看護師に相談して下さい	検査結果を確認しながら、手術へむけて準備を行います。	()時に手術室へ移動します	術後は病室に帰ります		注意点を守りながら、少しずつ、日常生活のリズムを戻していきましょう	水分開始になります	食事開始になります	退院
検査	手術に必要な検査をします	術前日の流れ	朝起きてから手術に行くまでの流れ		必要に応じて採血・レントゲン写真 (退院まで)				
処置	基本的に、処置はありません	□おへその周りの除毛をして、おへそのそうじをします □入浴 □点滴 □10時・14時 下剤を内服します □腕に名前を書きます(医師) □準備品の確認をします	□麻酔科医師の指示の内服薬があれば服用してください □前あきの下着、病院のパジャマに着がえて下さい □弾性ストッキングをはいて下さい □化粧やマニキュアを落として下さい □義歯、めがね、時計、ヘアピン、指輪を外して下さい。家族の方に、貴重品を渡して下さい	点滴 酸素吸入 心電図モニター 尿の袋 腸に入っている管 胃の管	酸素 心電図モニター 尿の管 胃の管が抜けます	痛み止めの管が抜けます 傷に入っている管が抜けます		術後7日目頃に抜糸します。	以下の症状があるときは受診日以外でも来院してください。 ・腹痛がひどい時 ・排便やおならがなく、お腹の張りが続いている時 ・嘔吐が続き、吐き気がひどい時 ・黒い便が出た時 ・高熱が出たり微熱が何日も続くような時 わからない点、疑問点がありましたら、何でも医師や看護師
注射	基本的に、注射はありません	不安なときは、ポータルトイレを用意します			立ちましょう	立ちましょう	水分開始	食事開始	退院時、必要な分のお薬が処方されます
内服	飲んでいるお薬はすべて看護師にお知らせください。				必要に応じて、ポータルトイレや尿器を用意します	初めて歩行する時は、看護師が付き添います。術後早期に歩き始めた方が、回復も早くなります。			職場復帰、旅行などは医師に相談して下さい
食事		術後許可が出るまで、飲んだり食べたりできません							
清潔行動	活動制限や入浴に制限はありません		病棟を離れるときは、看護師にお知らせ下さい。						入浴のときは…熱いお湯は体の疲労を伴います。長湯にならないようにしましょう。
説明	病棟での日常生活をご案内します 手術の予定を説明します	麻酔科医師と、手術室の看護師の訪問があります							□次回予約票が渡されます □リストバンドを外します
腸の手術を受けられる方へ	腸には、食品の栄養分が吸収された後の残渣物から水分を吸収し、便を作る働きがあります。手術によって腸の中に残渣物が留まる時間が短くなり、下痢に傾いたり便秘に傾いたり、排便の調節が難しくなっています。腸閉塞が起きやすい状態になっていますので、食生活に十分に気をつけて、排便調節をしていく必要があります。 食事について…偏食をさけ、バランスのとれた食事を心がけて下さい。 以下は、控えるかよく噛んで食べて下さい。 ・熱すぎたり、冷たすぎたりする食べ物 ・刺激の強い食べ物…香辛料・わさびなど ・消化の悪い食べ物…イカ・たこ・するめ・キノコ類・海藻類など その他 ・下痢になりやすい食べ物…冷たい牛乳・天ぷら類・アルコール類・アイスクリームなど ・便秘を予防する食べ物…野菜類・バナナ・プルーン・果物など 安静と運動に関して…適度な運動は、腸の血行を良くし、動きを活発にします。軽い散歩や体操などから始め、体を慣らしていきましょう。疲れたら無理をせず、休息を取って下さい。 便秘になったときは… ・腹部「の」の字を描くようにマッサージする。 ・水分を多めにとり、食物繊維の多い食品をとる。 食物繊維の多い食品→パン・玄米・豆・芋類・果物・バナナなど ・下剤の乱用は慎む。 下痢になったときは… ・腹部の保温(腹巻き・ほっかいろう使用) ・脱水になりやすいので、水分を補給する ・暖かい消化の良い食べ物を摂取する。(お粥・煮込みうどん・葛湯・ヨーグルトなど) ・以前より下痢を起こしやすかった食べ物は、術後も控える。 ・下痢止めの薬の乱用は慎む								